

# 令和2年度 宜野湾市平和大使育成事業



## 事業報告書

令和2年 12月5~6日  
沖縄県内





## 市長あいさつ

本市におきましては、昭和60年に「宜野湾市反核、軍縮を求める平和都市宣言」を行い、その理念の下、平和の尊さや平和思想に対する啓発及び戦争と復興の歴史の経験を継承することを目的とする平和事業を推進しております。



その一環として、平成17年より「平和学習派遣事業」として、市内中学生8名を毎年8月7日に長崎で開催される「長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」及び「青少年ピースフォーラム」に派遣し、戦争の愚かさ、悲惨さ、平和の大切さを学んでいただく事業を推進して参りました。これまで延べ112名の生徒を派遣しております。

昨年、戦後75年の節目を迎え、年々戦争体験者が減少していることに伴い、あらためて戦争の悲惨さや平和の尊さをしっかりと後世へ伝えていくことの重責を感じている次第でございます。

そこで、本市といたしましては、今年度、従来の「平和学習派遣事業」の見直しを図り、「平和大使育成事業」として事業を開始いたしました。派遣生徒の絆の構築と世代間の繋がり創出を目的とした当事業を推進することにより、戦争の悲惨さや平和の大切さ、命の尊さを次代へ継承する人材の育成を図って参ります。

今年度の研修につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、残念ながら「長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」及び「青少年ピースフォーラム」への派遣は叶いませんでしたが、宜野湾市内を中心とした、県内の戦跡を巡るフィールドワークや平和関連施設の訪問など、沖縄戦について多角的に学ぶ機会になったことと存じます。

令和2年度平和大使におかれましては、これからも引き続き本市の平和推進事業へ積極的に参加し学びを深めていただくと共に、大使同士の絆の構築と平和な社会の創造にお力添えいただくよう、期待申し上げます。

結びに、本事業の実施にご理解・ご協力を賜りました教育機関、保護者の皆様に心より感謝申し上げますとともに、市民の皆様には、平和な社会の創造に大きく貢献していただき、近い将来「戦争も核兵器もない、平和で希望のある世界」が実現されることを祈念いたします。

令和3年3月  
宜野湾市長 松川 正則

  
**目次**  


事業概要	3
平和大使名簿	4
事業説明及び認定証交付式	5
調べ学習	6-10
県内研修日程	11
県内研修	12-19
ポスター作り	20
平和大使研修報告	
■ 普天間中学校	1年 大川 麗樹 . . . . . 21
■ 普天間中学校	1年 仲村 萌愛 . . . . . 22
■ 真志喜中学校	1年 宮城 穂乃子 . . . . . 23
■ 真志喜中学校	1年 松田 梨愛 . . . . . 24
■ 嘉数中学校	2年 名護 天志 . . . . . 25
■ 嘉数中学校	2年 名嘉眞 遥音 . . . . . 26
■ 宜野湾中学校	1年 大城 夕夏 . . . . . 27
■ 宜野湾中学校	1年 當間 心椛 . . . . . 28
■ 沖縄国際大学	1年 野村 美芽 . . . . . 29
学習報告会	30-31
リーフレット配布活動	32
宜野湾市平和大使育成事業実施要綱	33-34
平和都市宣言（宜野湾市）	35



## 実施概要



### 1. 背景と目的

戦後 75 年余りが経過し、かつて沖縄戦において悲惨な体験をした世代が減少している今日、戦争を知らない世代、特に若い世代が平和について学ぶ機会を作ることは、本市の平和行政を推進する観点から大変重要なことです。

特に本市においては、沖縄戦当時嘉数地区に日本軍の前哨基地があったことから、市内で激しい戦闘が繰り広げられ、多数の住民が犠牲になりました。

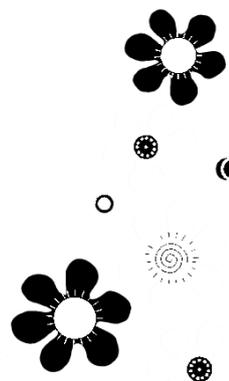
この過去の事実をしっかりと捉え、戦争を知らない世代に正しく継承していくことは私たちの責務です。

本市では、平成 31 年度まで実施していました「宜野湾市平和学習派遣事業」を、世界平和を希求する「宜野湾市反核、軍縮を求める平和都市宣言」の理念の下、戦争の悲惨さ、平和の大切さ及び命の尊さを次代へ継承する人材を育成するため、令和 2 年度より事業名を「宜野湾市平和大使育成事業」とし、平和行政を推進に取り組んでいます。

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により平和大使を長崎に派遣することはできませんでしたが、2 日間にわたる県内研修を実施し、あらためて、自分たちの育ったこの沖縄や宜野湾の戦いを学びました。

### 2. 実施経過

- 令和 2 年 10 月 5 日  
宜野湾市長より宜野湾市教育委員会へ事業協力依頼  
市内各中学校校長へ平和大使の推薦依頼
- 令和 2 年 10 月 15 日  
宜野湾市長より沖縄国際大学へ事業協力依頼  
学長へ平和大使の推薦依頼
- 令和 2 年 11 月 4 日  
事業説明会及び平和大使認定証交付式
- 令和 2 年 11 月 5 日～12 月 4 日  
平和大使調べ学習期間
- 令和 2 年 12 月 5 日（土）～12 月 6 日（日）  
県内研修
- 令和 2 年 12 月 12 日（土）  
ポスター作り
- 令和 3 年 3 月 1 日（月）  
市長・教育長・保護者及び学校関係者へ学習報告会
- 令和 3 年 3 月 26 日（金）  
WEB ページ開設とリーフレットの広報活動



  
**令和2年度宜野湾市平和大使育成事業 平和大使名簿**  


学校名・教育機関名	氏 名	学 年
普天間中学校	おおかわ れいじゅ 大川 麗樹	1年
普天間中学校	なかむら もあ 仲村 萌愛	1年
真志喜中学校	みやぎ ほのこ 宮城 穂乃子	1年
真志喜中学校	まつだ りあ 松田 梨愛	1年
嘉数中学校	なご たかし 名護 天志	2年
嘉数中学校	な か ま はるね 名嘉真 遥音	2年
宜野湾中学校	おおしろ ゆか 大城 夕夏	1年
宜野湾中学校	とうま ここな 當間 心栴	1年
沖縄国際大学	のむら みいめ 野村 美芽	1年

# 事業説明会及び認定証交付式

## ～ 会 次 第 ～

日時：令和2年11月4日（水）19：00～20：00

場所：宜野湾市役所 第三常任委員会室

1. 事業内容の説明（事業目的）
2. 認定証交付式
3. 市長あいさつ・・・宜野湾市長 松川 正則
4. 自己紹介（平和大使、市役所担当職員）
5. 事業詳細と今後の流れ

- ① 調べ学習
- ② 県内研修行程表（市内・南部）
- ③ 県内研修にあたっての注意事項（持ち物・服装）
- ④ ポスター制作
- ⑤ 学習報告会について

日 時：令和3年1月21日（木）19：00～20：30

場 所：宜野湾市役所本館3階 第三常任委員会室（18：50 集合）

対 象：平和大使及び保護者（1名）、各学校長、平和事業担当教諭

内 容：県内研修で学んだことを報告

持ち物：学習報告書（400字詰め原稿用紙2枚程度を提出）

※ 詳細については、後日通知いたします。

- ⑥ 市ホームページにおける沖縄戦関連ページ完成に係るPR活動について

6. 質疑応答
7. 教育委員会指導課長あいさつ・・・與那嶺 哲 指導課長
8. 閉会



認定証をもつ平和大使

## 調べ学習（要約）

### 【普天間中学校 1年 大川 麗樹】

みなさんは首里城がいつ頃に建造されたと思いますか。首里城は14世紀ごろに建造され、1406年に尚巴志の琉球王国支配の居城として登場します。その首里城がある沖縄は、中国と日本の交易を行う重要な拠点であり、首里城は琉球王国の栄華の証として2000年に世界遺産に登録されました。

そんな首里城ですが、1609年に薩摩藩が3,000名の軍勢をもって琉球王国に進攻し占拠されてしまいました。それ以後沖縄は、270年間にわたり表向きは中国の支配下にありながらも内実は、薩摩藩と徳川幕府の依属国であるという微妙な国際関係の中に存在していました。

首里城は、1945年の沖縄戦で砲撃を受け、4度目の焼失となりましたが、多くの人々の悲願で1992年、本土復帰20年を記念して復元されたのです。正殿に行くまでに6つの門で分かれており、当時の琉球王国の力を感じるつくりです。また、城内にある11個のスタンプを集めると記念シールがもらえます。みなさんの知っている首里城も1度壊れていたもので、本物とは少し色などが変わっています。また焼失しましたが元にもどってほしいと思いました。

### 【普天間中学校 1年 仲村 萌愛】

戦争について主に3つのことを調べました。

1つ目は沖縄戦についてです。なぜ沖縄が戦場になったのでしょうか。それは、日本本土を攻めるための基地として沖縄を占領しようとした米軍に対し日本軍は、日本本土に攻め込まれたら困るため、なるべく沖縄に引き留めて時間を稼ごうとしたからです。1945年4月1日に沖縄に米軍が上陸し約3ヶ月にわたる戦いが始まりました。地上戦だった沖縄戦は県民の多くが犠牲となり、亡くなった県民は推計12万2千人以上とされており。

2つ目は、学校の平和学習で訪れた佐喜真美術館に展示されている縦4メートル、横8.5メートルの巨大な沖縄戦の図についてです。大きな一枚の紙には空白の瞳と空白の空間で沖縄戦のつらさや悲惨さが表現されています。また、絵の左下には、集団自決の恐ろしさが描かれています。

3つ目は普天間基地についてです。私は普天間第二小学校の出身でヘリコプターの大きな音や2017年12月13日に運動場に重さ7.7キログラムの窓枠が落ちてくるなど多くの基地問題に悩まされました。この事件後、数百回にわたる避難、運動場が使えないつらさや悲しみを今でも覚えています。毎年のように「12・13を考える日」があり、今でも平和について考えます。

平和大使育成事業は、沖縄戦について深く考えることができ、今の私たちだからこそ伝えられることもあると思うので、この機会を活かしたくさん学びたいです。

## 調べ学習（要約）

### 【真志喜中学校 1年 宮城 穂乃子】

私は、同じ年齢の少女たちが戦争のとき、どのように過ごしていたのか知りたかったので、ひめゆり学徒隊について調べました。

日本軍が沖縄を本土防衛の前線として守り抜こうと必死の攻防を試みるなか、司令部壕があった那覇市では、10・10空襲により大打撃を受け、地上戦への恐怖を募らせていました。

日本軍が看護要員を育てるために、ひめゆり学園では救急法や包帯の巻き方などの基礎的な看護訓練が行われていました。戦争激化に伴い兵力・労働が不足し、学園の生徒もひめゆり学徒隊として強制的に看護要員として動員されました。当初は主に看護活動を行っていましたが、負傷兵増加に伴い敵の攻撃中、水くみなどの危険な仕事や死体埋葬などのつらい仕事も昼夜通して行われました。

最終的にひめゆり学徒隊では、計227人の尊い命が、学徒全体としては男子1,445人、女子は約505人のうち約半数の尊い命が奪われました。

もし夜遅くに爆弾が落とされたら、私だったら恐怖で逃げることができずにいると思いますが、その恐怖の中でも一生懸命生きようとした人たちがいたことに気づき、すごいなと思いました。今までは本やネットで調べたり戦争体験者の話を聞いて怖くなったりするだけでしたが、平和大使として、二度と戦争を起こさないために、多くの人に戦争の怖さを伝えていけたらと考えました。

---

### 【真志喜中学校 1年 松田 梨愛】

私は、現在92歳の戦争体験者のひいおじいちゃんから話を聞きました。

名護の喜瀬に住んでいたひいおじいちゃんを含む生徒たちは、伊江島に飛行場を建設するために1ヶ月交代で伊江島に寝泊まりし、昼勤務・夜勤務で働いていました。その後、スパイやゲリラ戦を実行できる軍人を育てる護郷隊に入り、少年たちで活動するゲリラ部隊の伝令として活動していました。一緒に働くことのあった年上の鉄血勤皇隊として活動する方は、偵察の仕事を任されたのですが、アメリカ軍のゲリラ部隊の攻撃にあい全員亡くなりました。遺体の引き取りにきた親がひどく泣いているのを見て「これは大変だ。逃げなければ。」と思ったそうです。お父さんを空襲で亡くしたので長男として家族を養っていくため苦労したそうです。

目の前で人が亡くなり、たくさんの遺体を目の当たりにすることは、すごく残酷なことだと思いました。また、私と同じ子供たちが当たり前のように働かされていたことに驚き、恐ろしいと感じました。「戦争は本当に怖い。二度としてはいけない。」と言ったひいおじいちゃんの思いを心に刻み、皆に戦争の恐ろしさを伝えていきたいです。

## 調べ学習（要約）

### 【嘉数中学校 2年 名護 天志】

僕は、対馬丸について調べました。対馬丸を調べた理由は、学校の授業で対馬丸のアニメを見て、なぜ将来のことをわくわくしながら考えるような子供達が犠牲になったのかを、より詳しく知りたいと思ったからです。

沖縄戦時に疎開船として使われていた対馬丸は、米軍の魚雷により沈没し、乗船者 1,800 人中 1,400 人余りの犠牲者が出ました。その中の約 800 人ほどが子供で、奇跡的に救助された子供達は、「対馬丸が沈没したことを話すな」という箝口令により、その辛い体験を家族にも話すことができませんでした。

本来守られるべき子供が、こんなつらい目にあってよいのでしょうか。戦争さえなければ、沢山の子供達や罪のない人々が犠牲になる事はなく、家族や友達と笑って過ごしていたはずです。

母から「おばあちゃんのお兄さんも疎開していたんだよ」と聞きましたが、昨年亡くなったため直接話を聞くことができず、戦争体験者がどんどん減っていると感じました。

僕らは今、戦争のことを知らないからこそ、学ばないといけないと思います。理解を深め、それを伝えていくことで、この先の平和を守っていきます。2度と戦争を繰り返さないために。

---

### 【嘉数中学校 2年 名嘉真 遥音】

私は「戦争」と聞くと6月23日や10・10空襲などの日付や単語を暗記したものが思い浮かびました。しかし、平和大使として平和について学ぶ環境が整っている私が、テスト勉強のような覚え方でいいのかと思い戦争体験者の話を調べてみました。

ひめゆり学徒隊だった方の話から、血を流す兵隊の世話や、友人が爆弾や病気で亡くなったことよりもその場を離れて今自分が生きていることを罪と感じるほうがつらく、そして、今でも米軍機の音を聞くと当時の記憶が蘇りフラッシュバックし動けなくなってしまうことが分かりました。

私たちは、沖縄戦の激戦地に残る戦跡が近くにあるからこそ見ることができている、また興味のある情報がすぐ得られる便利な世の中だからこそ、戦争関連のような情報は自分から向き合えないと得られないので、自分だったらと想像し、一人ひとりの平和に対する考えを伝え合うことで、より平和に近づいていくのではないかと思います。

## 調べ学習（要約）

### 【宜野湾中学校 1年 大城 夕夏】

私は、嘉数高地でどのように戦い、どのくらいの人が命を失ったのか調べました。

まず、嘉数高台戦跡概要から嘉数高地での戦いがたくさんの尊い命を失ったこと、アメリカ軍に恐れられる程に激しい戦いの地だったことが分かりました。

1945年4月9日、首里に向かうアメリカ軍は、嘉数高地の日本軍に激しい攻撃を加え始めました。12日、日本軍は意見の対立により「持久戦法」の方針とは違い、大規模な夜間攻撃をしかける戦法をとり、大損害を受けました。

アメリカ軍は戦車を増強する一方、4月14～17日にかけて激しい空爆や火炎放射器による攻撃も加えたのです。

そして、4月19日。アメリカ軍は「鉄の暴風」という名にふさわしい攻撃を始めました。日本軍が潜む地下壕は攻めにくく、爆雷箱を抱えた兵士が敵の戦車に体当たりする無謀な戦術等による死にももの狂いの抵抗で、日米両軍、また、嘉数集落住民の半数以上が犠牲になり、3分の1の家庭が一家全滅してしまっただけです。

1945年1月27日付の「沖縄新報」によると、日本軍は「ただ軍の指導を理屈なしに素直に受け入れ、全県民が兵隊になること」を要求し、「1人10殺」を「沖縄県民の決戦合言葉」にするよう主張していたのです。その結果、地獄のような激戦になりました。

このような争いが、二度と起きてしまわないよう、透き通る海が絶対に血で染まらないようこの沖縄を守っていきたくて思いました。そのために、平和大使育成事業のように、戦争についてよく知ることを広めていきたくて思っています。

---

### 【宜野湾中学校 1年 當間 心花】

私は、沖縄戦の嵐の中、どのような悲劇や苦痛、貧しさを感じたのか調べてきました。

沖縄戦は1945年3月下旬から3カ月余にわたって続けられた日米最後の決戦であり、数十万の住民が巻き込まれ、最大の犠牲者となりました。

戦時中は、医療設備や薬がとぼしい中、麻酔のないまま手術や手足の切断なども日常的に行われました。陸軍病院の南部撤退により、連れていけない重症患者は青酸カリによる自決を強要されるなど、多くが悲惨な最期をむかえました。

日本軍は兵力に大きな穴が空いており、14歳以上の男子中学生も対象に召集令状が送られ集められました。また、日本軍は、沖縄県民をスパイ視して拷問や虐殺をする住民殺害、住民の食料を強奪したり足手まといを理由に自害を強要することで住民は逃げ場を失い、米軍に保護される者もいましたが、食糧不足により餓死や追い詰められた住民もいてまさに地獄の状況だったそうです。

私は、平和学習で戦争はどれだけ苦しいのかなどをしっかりと学習して、「絶対に繰り返してはいけない」とみんなに伝えていきたくて思いました。



## 調べ学習（要約）



### 【沖縄国際大学 1年 野村 美芽】

私は「沖縄戦と城跡」をテーマに調べ学習を行いました。沖縄県には世界遺産として観光客でにぎわう城跡が数多く存在します。しかし、それらの城跡は戦争に巻き込まれていきました。

首里城地下には、旧日本陸軍第 32 軍司令部壕が掘られていたため、米軍の猛攻を受け焼失してしまいました。座喜味城跡には、米軍を攻撃するための高射砲が設置されていましたが、米軍は低空飛行で攻撃してきたため、逆に攻撃の的となってしまいました。浦添城跡のある前田高地では、映画「ハクソー・リッジ」でも描かれた激戦が繰り広げられました。また、あまり知られていませんがうるま市の具志川城跡の壕では、若者たちの手榴弾を用いた集団自決が行われました。

今日では、沖縄の歴史と文化の象徴として広く知られ、国や世界から認められ、沖縄の観光の一端を担う数々の城跡も戦争で傷つけられ、また負の遺産という一面を持つことになってしまいました。そして、人々の尊い命だけではなく、誇れるべきものまで壊してしまいました。

少し調べるだけで沖縄戦の一面を覗くことができ、城跡と沖縄戦という今までの自分になかった視点を見つけることができたのが、この調べ学習を通しての一番の成果だと思います。このことを次の世代に伝えていくために、私たちに何ができるのか考え続けていこうと思いました。

県内研修日程

日 付	時間	日 程
<b>1日目</b> 12月5日 (土)	8:45	市役所出発
	9:10	◎嘉数高台公園 ・弾痕の壁・陣地壕・トーチカ・慰霊碑・展望台
	10:20	◎前田高地（浦添市） ・ハクソーリッジ・ティークガマ・前田高地平和の碑 ・ワカリジエ・カンパン壕・缶詰壕  ◎調べ学習発表①（車内）
	12:00	昼休憩（サンセットビーチ）
	13:30	◎チビチリガマ（読谷村）  ◎調べ学習発表②（車内）
	15:30	◎共同墓地跡（キャンプ瑞慶覧）※車窓から ◎イリーオキナワン跡（普天間高校）※車窓から ◎すずらん通り ※車窓から
	15:35	◎野嵩収容所 ・野嵩収容所入口・ハウスナンバー32 ・MP事務所跡・野嵩クシヌカー
	16:20	市役所到着・解散
<b>2日目</b> 12月6日 (日)	9:00	市役所出発
	9:30	◎首里城・第32軍司令部壕（那覇市）
	10:50	◎対馬丸記念館（那覇市）
	12:00	昼休憩（旧海軍司令部壕前）
	13:20	◎旧海軍司令部壕（豊見城市）
	14:30	◎ひめゆり平和祈念資料館（糸満市）
	15:40	◎沖縄県平和祈念資料館（糸満市）
	17:30	市役所到着・反省会

## 県内研修1日目

1日目は、市内の戦跡に加え、浦添市の前田高地や読谷村のチビチリガマで研修を行いました。宜野湾市立博物館の館長やチビチリガマ遺族会代表の方から、直接当時の激戦の様子や多くの住民が犠牲になったことを聞くことができ、より知識を深めました。

### ◎嘉数高台公園

沖縄戦の激戦地でもある嘉数高地では、比屋良川により米軍の進攻が阻まれました。また日本軍の爆雷を背負って戦車に体当たりする肉弾戦法による戦いで、日米両軍は多数の死者を出し、巻き込まれた嘉数の人々の約50%が亡くなりました。



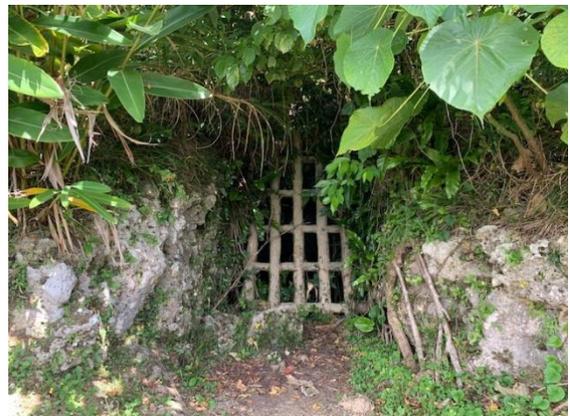
▲弾痕の扉



▲トーチカについて学びました



▲トーチカに入りました



▲陣地壕

県内研修1日目



▲慰霊碑



▲展望台で米軍の進攻等を学びました

◎前田高地（浦添市）

映画ハクソーリッジの舞台にもなっている前田高地。首里軍司令部から約4 kmに位置する浦添城跡や前田の公務員住宅がある高地一帯を前田高地と呼びます。ここを突破されると司令部は目と鼻の先のため、こちらでも激戦が繰り広げられました。



▲前田高地（ハクソーリッジ）



▲ディークガマ



▲前田高地平和の碑



## 県内研修1日目



▲カンパン塚



▲缶詰塚

### ◎調べ学習

図書館や資料館、家族から聞いた話をまとめて各自調べ学習を行い、バスの車内で発表をしました。





## 県内研修



### ◎チビチリガマ（読谷村）

避難した住民約 140 名中 83 名（約 6 割が 18 歳以下の子供たち）が集団自決により尊い命を失いました。



▲遺族会の方から直接お話を聞きました



▲平和の像

### ◎野嵩収容所

当時の住民がどのような収容所生活を送っていたのか、また米兵がどのように住民を収容していたのかを学びました。



▲宜野湾に唯一残るハウスナンバー32



▲MP（ミリタリーポリス）事務所跡



◀野嵩クシヌカ

#### ハウスナンバー32

民間人を収容するため、焼け残った家に1号、2号と番号を打っていました

#### MP 事務所跡

米兵が野嵩地域の警戒、他所から入ってきた米兵の取り締まりをする事務所

## 講師紹介

與那覇 徳雄（よなは のりお）

- ・チビチリガマ遺族会 会長
- ・読谷村議会議員
- ・遺族会の代表として、チビチリガマでの沖縄戦当時の状況などを説明してもらいました。



平敷 兼哉（へしき けんや）

- ・宜野湾市教育委員会 教育部 市立博物館 館長
- ・平和大使講師として、解説していただきました。また、市民講座として「宜野湾戦跡めぐり」等のガイドを行っています。



## 県内研修2日目

2日目は南部を中心に、沖縄戦に関連する施設で研修を行いました。資料館では戦争体験者の貴重な証言映像や展示物などから、改めて戦争の悲惨さ、平和の大切さ、命の尊さを学ぶことができました。

### ◎第32軍司令部壕（那覇市）

入口はフェンスで閉鎖されているため入ることができませんでしたが、沖縄守備軍の戦闘司令部だったこと、約千人の日本軍がここで生活していたこと等を学びました。



### ◎対馬丸記念館（那覇市）

こちらの施設では、対馬丸が米軍により撃沈され多くの尊い命を失ったこと。数日間の漂流の後たどり着いた地では、日本軍による「対馬丸撃沈」について、かん口令が敷かれ他人に話すことが禁じられ苦しい思いをしたこと。対馬丸以外の船で疎開した疎開先での苦しみや困難を、パネルや様々な展示物（遺留品、生存者が家族に送った手紙、当時の学校生活がわかる教科書等）から学びました。



▲生存者の苦悩を学びました



▲職員から説明を聞きました



◀展示物を見る平和大使

県内研修2日目



◎旧海軍司令部壕・資料館  
(豊見城市)

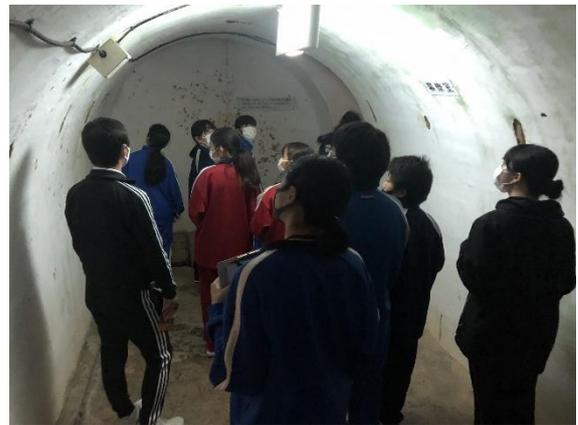
当時 450 メートルの壕内に  
4,000 人余りの兵士がどのように  
収容されていたのかを学びまし  
た。また、幕僚の自決により残っ  
た血痕が戦争の恐ろしさを語って  
いました。



▲沖縄戦の流れを年表に沿って見学  
しました



▲壕内の居室



▲自決の破片が残る壕内



◎ひめゆり平和祈念資料館  
(糸満市)

生存者の証言映像や証言本、米軍  
のフィルム、発掘された医療器具の  
品々、再現された実物大の壕から戦  
争に動員された学徒隊について学び  
ました。



※館内撮影禁止

県内研修2日目

沖縄県平和祈念資料館（糸満市）  
戦時中・戦後の歴史を展示物  
や映像等、音声ガイドも使  
いながら総合的に学びました。



※館内撮影禁止

その他

お昼（旧海軍司令部壕前公園）

初年度の平和大使として一緒に皆で昼食をとり、絆を深めました。





## ポスター作り



■ 12月12日（土）

2日間の県内学習で学んだことを資料や写真を見て、振り返りながらポスターを作りました。



ポスターを作る様子



1日目：嘉数高台、前田高地を作成



1日目：チビチリガマ、ハウスナンバー32  
MP事務所、クヌシカーを作成



2日目：首里城、対馬丸記念館を作成



2日目：旧海軍司令部壕、ひめゆり平和祈念  
資料館、平和祈念資料館を作成

## 平和大使研修報告

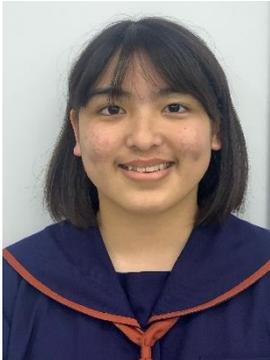


### 伝えたいこと

普天間中学校 1年 大川麗樹

ぼくは、今回の平和大使でたくさんのことを学びました。その中で一番心に残った場所があります。そこは、チビチリガマです。チビチリガマで多くの人が集団自決を行い、たくさんの方が亡くなりました。ガマの中はとても狭く、その中に何百人もの人が入っていたと聞くと、とても苦しかっただろうなあと思いました。子どもをもっていた親などは、とても自決などしたくなかったと思います。ガマの中には、自決で使ったと思われる鎌やお酒のビンなどがありました。戦争のせいで多くの人々が亡くなり、自由に過ごす時間もなくなりました。戦争で多くのおじいちゃんも亡くなり、とても戦争など争いはしたくないと思いました。戦争は本当におこってほしくないです。今回の平和大使で学んだことをたくさんの人に伝えていきたいです。

## 平和大使研修報告



### 平和のためにできること

普天間中学校 1年 仲村萌愛

私は今回平和大使育成事業に参加し、多くのことを学び、貴重な体験をすることができました。「沖縄戦」と言っても今まで私が学んできたことはほんのわずかなことで、平和大使育成事業では、当時の生活や気持ちなど、より「沖縄戦」について知ることができました。様々な場所で様々な体験をした中で心に残ったことを紹介します。

まず1つ目は、チビチリガマです。避難していた住民約140名中83名が「集団自決」で命を落としました。私は、実際に現場へ行きガマの中に入りました。そこは、ライトがなければとても暗く、数分いるだけで怖かったです。「集団自決」は戦争が起こらなければ絶対になかったことだと思います。私はここで改めて命の大切さを学ぶことができました。

次に2つ目は、対馬丸記念館です。記念館には、犠牲者の遺影や遺品が展示されていました。普通の生活を送り将来のある子どもたちが何もしていないのに犠牲になり、いま自分が当たり前のようにしていることが、戦争の頃は当たり前ではないということに気づきました。これからは普段の生活から、いま生きているのは当たり前ではなく、家族や周りの人のおかげだということを忘れずに生きていこうと思います。

私はこれからも「沖縄戦」を含め戦争について、より学んでいく必要があると思います。この平和大使育成事業で学んだことを家族や友達に伝えて、皆で「平和」になることを願い「平和」な社会になるように貢献していきます。

## 平和大使研修報告



### 戦争による被害の大きさと命の大切さ

真志喜中学校 1年 宮城穂乃子

今回県内研修に参加して、ガマや使われていた道具を実際に見ることが出来ました。

私が一番印象に残ったのは、糸満市にあるひめゆり平和祈念資料館です。ひめゆり資料館では、戦争を知らない人が人口の過半数を超え、未だに紛争の絶えない国内・国際情勢の中で、ひとりひとりの体験した戦争の恐ろしさを語り継いでいく必要があることから建設されました。平和であることの大切さを訴え続けていくためです。

ひめゆり資料館には、当時子どもたちが実際に使っていたカバンや筆箱、日記の書かれたノートが展示されていまいした。また、小学校低学年ぐらいのサイズの着物と草履もありました。展示物を見ていると、昔の生活の様子がよく分かりました。

ひめゆり学徒隊に所属していた方々の写真と人柄が細かく説明されていました。事前学習でひめゆり学徒隊について本やインターネットで学習していましたが、実際に見たことでより鮮明に戦争の恐ろしさや悲惨さを実感することができました。

大きいスクリーンでは証言ビデオ「平和の祈り ひめゆり学徒隊の証言」を視聴しました。

今回、宜野湾市平和大使の研修に参加し、改めて戦争による被害の大きさや命の大切さなど、沢山のことを学ぶことが出来ました。これからも多くの方が戦争の恐ろしさについて学び、平和の大切さを考える機会を持つことは、とても重要なことだと感じました。また、実際に資料館やガマへ足を運ぶことで、より戦争を身近に感じることができ恐怖や悲しみを体験することも、戦争を学ぶ上で大切なことだと感じました。

私は、平和大使として、平和への意識を高め、戦争の悲惨さ平和の大切さ、命の尊さを家族や友人と話し考える機会を増やし、継承していきたいと考えます。

## 平和大使研修報告



### 研修で知った戦争の悲惨さと大きさ

真志喜中学校 1年 松田梨愛

今回の県内研修に参加して良かったことは、ガマや壕など戦時中使われていた場所を実際に見ることができたことと、資料館で体験者の証言や資料を多く見ることができたことです。それによって、多くのことを学ぶことができました。

特に印象に残った場所は、チビチリガマです。遺族会の会長さんの話を聞いて、なぜ人々は集団自決をしなければならなかったのかを知りました。国のために死ねという教えや、捕虜になれば恐ろしいことをされるという情報を信じてしまったために、集団自決を選ばなければならなかったことが分かりました。チビチリガマに入るといふ貴重な体験もできました。ガマに入ると入口は少し広い空間がありますが、奥に進むには腰をかがめなければならない場所があり、一番奥は天井が低く狭い場所でした。奥に行くにつれて空気が変わり、体が重くなっていくように感じました。当時の人々の苦しみが体に伝わってきました。

対馬丸撃沈事件やひめゆり学徒隊の話は聞いたことがありましたが、詳しいことは知らなかったので、資料館で初めて知ることが多かったです。まず、対馬丸の事件やひめゆり学徒隊の中で亡くなった方の数が多いことに驚きました。ひめゆりの生徒の仕事の内容が、切断した手足の処理や爆弾の中をかいくぐっての水くみや食事の運搬など、思ったより重いものだったことにも驚きました。体験者の証言を読んだり、映像を見たりしましたが、何十年と時が経っているにもかかわらず、当時友達と交わした会話や、その当時の出来事、思いを鮮明に覚えていたり、今でも当時のことを語ると涙が出るほど強く心に残る体験なのだと思います。

今回の研修で感じたことは、戦争の悲惨さと規模の大きさです。私が思っていたよりずっと酷いものでした。今回の研修での体験を周りの人に伝え、皆が平和について深く考える機会が増えるといいなと思います。

## 平和大使研修報告



### 伝えることの大切さ

嘉数中学校 2年 名護天志

沖縄戦のような戦争は二度と繰り返してはいけません。僕は今回、沖縄戦について学び、そう強く思いました。

戦争は多くの方が犠牲になるから嫌いです。特に沖縄戦は、兵士だけではなく住民も多く巻き込まれた戦争でした。その時の様子を伝えられる人はとても少なくなってきました。

僕の叔父は親族の中で唯一学童疎開を体験しましたが、先日他界し、直接話を聞くことができませんでした。

ネットや本で調べるより沖縄戦を体験した人たちに話を聞くのが、一番その時の状況や周りの人たちの様子について知ることができ、平和への理解につながると思います。そのため、その人たちが少なくなった今、僕たちにできることは、沖縄戦について理解を深め、悲惨な体験をした人たちの代わりに戦争の愚かさ、平和の大切さを伝えていくことだと思いました。

今回の研修でチビチリガマを訪れた時、遺族会の会長の方が「集団自決とは、ただの殺人です」とおっしゃったときに僕はドキッとしました。確かに亡くなった人の中には小さな子どもたちも多く、もちろん自分の意志で死ぬことを決めたわけではありません。親の自決に巻き込まれる形で亡くなったのです。その子たちの親は、どんな気持ちで我が子に手をかけたのでしょうか。「死」以外の選択肢はなく、本当に追い込まれた状況だったのだらうと思うと胸が苦しくなります。

僕は戦争を経験していないので当時の出来事を伝えていくために、これからも僕たちは学び続け、もう争いで人の命が奪われることのないような世の中を創っていきたいです。

## 平和大使研修報告



### 伝えるということ

嘉数中学校 2年 名嘉眞遥音

戦時中、泣き声で米軍に居場所がばれてしまうために、追い詰められた母親が自らの手で我が子を殺してしまう・・・という話を聞いたことがあると思います。愛しくて仕方のないはずの我が子。その命を奪う・・・それはどれほど苦しく辛いことなのか私には想像もつきません。

私は宜野湾市平和大使として、県内研修に参加しました。二日間で沖縄戦に関わる場所を訪れました。個人で行くことはできない貴重な体験です。

私は、今まで平和学習をするときには、日付や数字に注目していたのですが、今回は体験者の方々の気持ちに重点をおいて学ぶという目当てがありました。

一番印象に残っているのは「チビチリガマ」です。戦時中多くの方が「自決」をしたガマだという認識だけで訪れた場所でしたが、遺族会の会長の方から、ガマで起きた悲惨な出来事についてお話を聞くことができました。米兵に殺されるよりは・・・と、中にいる人同士でカマや包丁を使って殺し合いが起きたり、元看護師の方によって死ぬための注射が打たれたりしたそうです。ガマの中には使われたであろうカマが残されており、それを見て私はとても心が苦しくなりました。また、ガマで起きたのは自分で決めた死ではなく「お国のため」という教育によって強制された死であったことが分かりました。遺族の方の苦しみは、今も深いものだと思います。

平和学習をする中で、目をそらしたくなるような写真を見ることがありますが、悲しく辛い戦争の事実を風化させないためにも、目を背けることなく過去に向き合うことが大切だと私は考えます。

私から発信できることはまだまだ少ないけれど、今回の経験を事実としてだけの情報ではなく、自分の感じたことも含めて伝える努力をしていこうと思います。

## 平和大使研修報告



### 言葉と家族

宜野湾中学校 1年 大城夕夏

私は、この二日間の県内研修で平和大使育成事業に参加しようと思った最初の気持ちに沿って学びました。その理由は、戦争のむごさやどんなことがあったのかをしっかりと世の中に伝えようと思ったからです。また、このことを伝えると「死ね」や「殺す」という言葉を使わなくなると思ったからです。

私は「家族」に目を向けました。戦争によって引き離された家族、亡くなった家族、自害した家族。いろいろな家族がいました。そこで、二つのことについて調べました。

まず1つ目は、チビチリガマです。よく新聞などで報道されているのは「集団自決」ですが、本当は「強制集団死」でした。チビチリガマに逃げ込んだ人々の中には、まだ小さい子供達もいましたが、自分で死ぬことを決めることができないので、母親の手によって殺される「殺人」が行われました。自分がお腹を痛めて産んだ子なのに、殺さなければならないという事実もありました。このようなことから、生きる意志を失い、自殺しようとする人も数多くいました。チビチリガマで起こったことは「集団自決」ではなく、殺人でもある「強制集団死」でした。

次に、二つ目は対馬丸です。対馬丸についても新聞やニュースで見ますが、報道されているのはほんの一部でした。対馬丸で児童が疎開し助かった人はとても少ないということばかりでした。対馬丸には、自分たちの居場所が危ないと思い疎開させた親、一緒に行こうと思い立った兄弟や姉妹が乗船していて、家族の思い絆から生まれた学童疎開でした。午後10時12分魚雷が命中しました。みんな船から飛び出し、幼稚園や保育園の小さな子供たちは、兵隊が投げ出していました。そして11分で沈没しました。

この命の重みを知り、「死ね」や「殺す」という言葉を軽々しく口に出す人が一人でも減るといいなと思いました。

## 平和大使研修報告



### 印象に残った戦跡

宜野湾中学校 1年 當間 心椛

私は、2日間かけて戦跡めぐりをしました。色々な場所をめぐった中で、特に印象的だったところが3つあります。

1つ目は、嘉数高台公園です。嘉数高台公園には、陣地壕やトーチカ、慰霊碑、展望台などがありました。また、陣地壕は軍専用の人工壕で内には入れなかったのですが、外から見ると真っ暗で何も見えませんでした。そのことを考えると、昔の人は真っ暗な壕の中に入入りしていたのですごいなと思いました。トーチカは分厚くコンクリートで覆われていましたが、壁がえぐられ、中に埋められた鉄筋が飛びだして、銃弾が当たった痕が残っていたので、当時戦争は激しかったことが分かりました。展望台では普天間飛行場が一望することができます。アメリカ軍の船が海をうめつくすほどの数だったと聞いて驚きました。

2つ目は、ひめゆり平和祈念資料館です。ひめゆりは第6展示室まであり、その中で一番印象的だったのは、第4展示室の「鎮魂」です。この第4展示室は、沖縄戦で亡くなったひめゆり学徒と教師の約227名の遺影などが壁にかけられ死因なども事細かく書かれていて、少し怖いなと思いました。

3つ目は、対馬丸記念館です。対馬丸記念館では、主に疎開のことについて学び、対馬丸事件についても館内に展示している多くの資料から学びました。その中でも、対馬丸撃沈による犠牲者の事が私の心に残りました。私と同じ世代の子供たちがたくさん亡くなっていて、とても驚き心が痛みました。あと1つ驚いたことがあります。それはかん口令です。対馬丸が撃沈されたあとの事件は一般人には語ってはいけないと厳重なかん口令が敷かれていたことに驚きました。

今回戦跡をめぐって、改めて戦争はしてはいけないと思いました。また、戦争をした後の地形がどれほど悲惨な状況かを語り、今の人たちに教え、次の人たちに伝えていくために、より戦争について学ぶ必要があると思いました。

# 平和大使研修報告



## 二日間で学んだことと これから私たちがすべきこと

沖縄国際大学 1年 野村美芽

私は、これまで小中高を通して戦争について学んできました。その学びをより深めたいという思いと、私たちが学んだことをより多くの人に知ってもらい、少しでも「平和」な世の中になってほしいという思いを持ってこの事業に参加しました。

二日間、戦時中は激戦地だったという場所やガマ、資料館などを訪問し、とても濃い時間を過ごしました。中でも私が印象に残っているのは、一日目に行った野嵩収容所があった場所と、二日目に行った首里城です。これまでの平和学習で印象に残っているのは戦争の恐ろしさや体験談でした。しかし、収容所があった付近を歩きながら、一軒の家に何世帯も住まわされていたことや、自分の地元に戻れない人もいたということ、どのような生活を送っていたのかを聞いて、戦争が終わってもすぐには平和が訪れたわけではなかったのかもしれないと感じました。「戦後」も戦争と同じように私たちは知るべきだと思います。また、首里城が印象に残っている理由は、そこに第32軍司令部壕があることを、私自身があまり意識したことがなかったからです。壕が通路から見えにくいということもあり、首里城を訪れる観光客は、自分たちの足元に壕があることを知らない人も多いのではないかと思います。しかし、多くの人が訪れる場所だからこそ、そこに壕があることを知ってもらい、それをきっかけにより多くの人に沖縄戦について興味をもってもらえるような機会が作りやすいのではないかと考えます。

二日間、本当にたくさんのことを学ぶことができ、今まで知らなかったことも知ることができました。また、この事業に参加することによって、今までより沖縄戦について学びたいと思い、時間をつくって書籍や証言映像などを見るようになりました。こうして、これからも戦争と平和について学び、考え、それを平和大使として他のメンバーと一緒に発信していきたいです。



学習報告会



嘉数中学校2年  
名護天志



嘉数中学校2年  
名嘉眞遥音



普天間中学校1年  
仲村萌愛



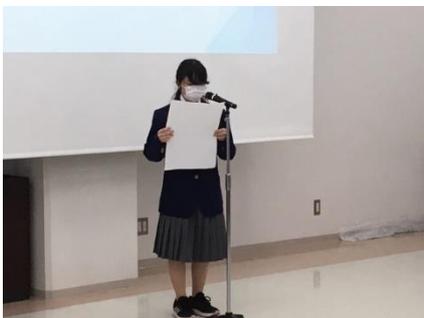
普天間中学校1年  
大川麗樹



真志喜中学校1年  
宮城穂乃子



真志喜中学校1年  
松田梨愛



宜野湾中学校1年  
當間心栞



宜野湾中学校1年  
大城夕夏



沖縄国際大学1年  
野村美芽



## リーフレット配布活動



今年度、平和推進事業として、宜野湾市のホームページ上に平和に関するページを新設し、宜野湾市の沖縄戦に特化したWEBページ（戦跡マップや戦争体験者による証言集）とリーフレットを作成しました。

多くの市民に見ていただくため、3月26日に宜野湾市役所の玄関や、りょうぼう入口で完成したリーフレットの配布活動を行いました。

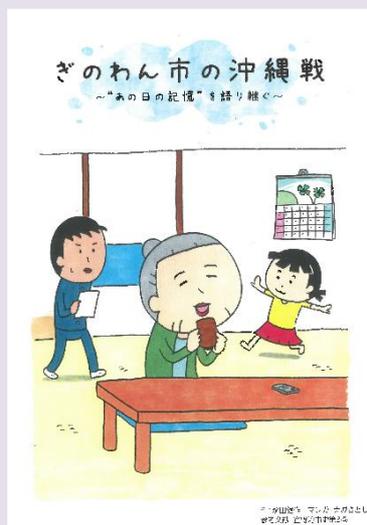


▲議員に配布する様子



▲りょうぼう入口

## 《リーフレット紹介》



▲リーフレット表紙



▲戦跡マップ

他にも宜野湾市の戦争についてのマンガや、戦争体験者へのインタビュー記事があります。（上記のQRコードからWEBページに飛べます。）

宜野湾市平和大使育成事業実施要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、世界平和を希求する「宜野湾市反核、軍縮を求める平和都市宣言」の理念の下、戦争の悲惨さ、平和の大切さ及び命の尊さを次代へ継承する人材（以下「平和大使」という。）を育成するため、平和大使に関する基本的な事項を定めるものとする。

(用語の定義)

第2条 この要綱における定義は、次に掲げるとおりとする。

(1) 平和大使 戦争の悲惨さ、平和の大切さ及び命の尊さを時代へ継承する者をいう。

(2) 青年層 おおむね20歳から39歳までの者をいう。

(平和大使の資格要件)

第3条 宜野湾市立中学校長、市内に所在する高等教育機関及び社会教育関係団体の所属長が平和大使に推薦する者は、次の要件を全て満たさなければならない。

(1) 宜野湾市立中学校に在籍し保護者の承諾が得られる生徒又は宜野湾市内に住所を有する青年層若しくは市内に所在する高等教育機関や社会教育関係団体に所属する青年層

(2) 青年層については、市税等を滞納していない者

(3) 過去に本市の平和大使として任命されていない者

(4) 現に本市の職員でない者

(5) 健康で5日間程度の県外生活に耐え、団体行動のとれる協調性のある者

(6) 思想、信条、宗教の如何を問わず市の平和事業に関心があり、広く平和を愛する者

(平和大使の選任)

第4条 平和大使の選任については、次に掲げるとおりとする。

(1) 各宜野湾市立中学校の生徒を2名ずつ選任する。

(2) 本市に所在する高等教育機関又は社会教育関係団体の青年層を若干名選任する。

(平和大使の決定)

第5条 市長は、選任された者のうち、特にふさわしいと認められる者を平和大使として任命し、平和大使認定証を交付するものとする。

2 宜野湾市立中学校から選任され、平和大使として任命された者から辞退の申出があったときは、同一中学校から選任するものとする。この場合において、前項の規定を準用する。

(平和大使の役割)

第6条 平和大使は、市民協働推進課の計画する県内の各戦跡等の研修（以下「県内研修」という。）及び長崎市、広島市等での研修（以下「県外研修」という。）に参加し、平和への認識を深めるとともに、研修終了後も市が行う平和推進事業に積極的に参加し、戦争の悲惨さ、平和の大切さ及び命の尊さを次代へ継承するものとする。

（費用負担）

第7条 市民協働推進課の計画する県内研修及び県外研修に係る費用については、平和大使に対し、予算の範囲内において市が負担するものとする。

（平和大使の登録）

第8条 第6条に規定する研修を修了した者は、平和大使名簿に登録されるものとする。

（その他）

第9条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は、市長が定める。

附 則

この告示は、公布の日から施行する。

# 世界平和を希求する 反核軍縮平和宣言都市



## 平和都市宣言

我々宜野湾市民は、第二次大戦の悲痛な教訓を生かし、反核、軍縮を求める平和都市として次のとおり宣言する。

- 我が国は、非核三原則を国是としており、今後ともその基本理念である反核を全国民が連帯して推進しなければならない。
- 宜野湾市民は、宜野湾市を永久に反核、軍縮を求める平和都市とすることを決意し、人類の滅亡につながる核兵器の廃絶と軍備の縮小を核保有国に強く求める。
- 我が宜野湾市民は、子孫の繁栄を願い、世界平和を希求する諸国民と連帯して、米ソ両国に反核、軍縮を強く求め、恒久平和を築くため、全力を尽くすことを誓う。

1985年（昭和60年）3月18日  
宜野湾市



発行 宜野湾市  
市民協働推進課 平和・男女共同係  
〒901-2710 沖縄県宜野湾市野嵩 1-1-1  
TEL 098-893-4119  
FAX 098-892-7022  
HP <http://www.city.ginowan.okinawa.jp>